

各

渋滞発生中!

地で緊急事態宣言が解除され、通常業務に復帰する事業所が増えてきました。当然、宣言中は減少していた交通量も増加しています。ちなみに、大阪府警察本部のまとめによると、今年4月の交通事故発生件数は月別の発生件数としては平成以降で最も少ない件数(1,806件)で、昨年同月と比べて率にして31%も減少していました(-830件)。行動自粛により車や人の外出が減少したことが交通事故減少につながったとみられています。しかし一方で死亡事故は多発し、交通事故死者数は大阪府下で9人と前年同月と比べて2人増と逆に増加していました。空いている道路で油断してスピードを出しすぎた車による事故が多かったことを示しています。

警察では、「緊急事態宣言が解除され交通量の増加が予想されるので、ドライバーは事故を起こさないように十分に注意して運転してほしい」と呼びかけています。医療機関や医療に従事する人たちにとっては、未だに緊急事態から脱していないことに変わりはありません。不注意な交通事故によってこれらの方々に迷惑をかけないということを肝に銘じて、「新しい生活様式では交通事故を絶対に起こさない」という心がけで運転しましょう

運

禁煙ノススメ

運転と煙草の危険については昔からよく指摘されています。運転中に煙草を吸うと、わき見による衝突事故や片手運転による操作ミスをする危険が高まるからです。最近では、新型コロナウイルス感染症に関連して喫煙のリスクが取り沙汰され、日本呼吸器学会などが禁煙を強く呼びかけています。というのは、喫煙者は肺の状態が新型コロナウイルスの感染を招きやすくなっている可能性があり、また、感染した場合に重症化しやすいということがいくつかの研究で明らかになっています。さらに、今は路上での喫煙がしにくいため喫煙室を利用する人も多いのですが、喫煙室は密閉された狭い「3密」空間であるため、より感染リスクが高まります。休憩しても喫煙する場所がないと嘆き、結局運転しながら車の中で吸うという悪循環が起こっています。できれば、運転をする方はこの機会に禁煙に取り組んではいかがでしょうか?

気

消毒用アルコールの車内放置に注意

気温が上昇し日差しも強くなってきました。5月といっても直射日光が非常に強い日が増えるので、車内温度は急上昇して、70℃を上回る恐れがあります。子どもやペットを車中に放置することは熱中症などの重大な危険につながると、何度も朝礼話題でお伝えしてきました。これらの危険に加えて、最近、消防署で警戒を呼びかけているのが消毒用アルコールによる火災事故の危険性です。新型コロナウイルスの感染予防のため、消毒用アルコールを使用する機会が増えていますが、アルコールの濃度が60%以上の製品は「消防法上の危険物」に該当し、蒸発しやすく蒸気が引火事故を起こす危険が大きいからです。ポンプ式のアルコール消毒器の近くでタバコを吸おうとして手に火が燃え移ってしまう映像が、東京消防庁の啓蒙動画ページで公開されていますが、同庁では、火気を近づけるだけでなく直射日光の当たるところに容器を置くことも危険だとしています。車の中に消毒用アルコールを放置すると、容器の破裂や火災の危険があります。外出時の消毒用に使用するのはいいのですが、車の中には放置しないように注意しましょう。